



モエワ★カムイ 76

NO.

MAR 2010

●モエワ・カムイはアイヌ語で「エノタマキ」のことです。

あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

ぼくは、動物大使

その37 雪と共に訪れ、雪解けと共に去ってゆく

オオハクチョウ 2.3

特集 追悼「ノシオ」

～ミナシロサイ「ノシオ」の思い出～ 4.5

あさひやま 解体新書 6

動物病院 VET ニュース 7

こども牧場だより 7

主なできごと 8

編集後記 8



オオハクチョウ
Cygnus cygnus



ほくは、
動物大使

その37 雪と共に訪れ、雪解けと共に去ってゆく オオハクチョウ

オオハクチョウ

Cygnus cygnus

ユーラシア大陸北部のシベリアなどで繁殖し、日本の東北・北陸地方で越冬する冬鳥。北海道は渡りの途中で立ち寄る中継地点に当たる。

雌雄同色で、つがいは一生変わらない(一夫一婦制)。一歳未満の幼鳥は灰色がかっており、くちばしの基部もピンク色をしている。

日中は水草や田んぼの落ち穂などを採食し、夜は湖面や流れのゆるやかな川面で休息する。寿命は15~20年。

オオハクチョウの分布



ととりの村のハクチョウたち

オオハクチョウ
日本で越冬する冬鳥。東北地方などで越冬する。

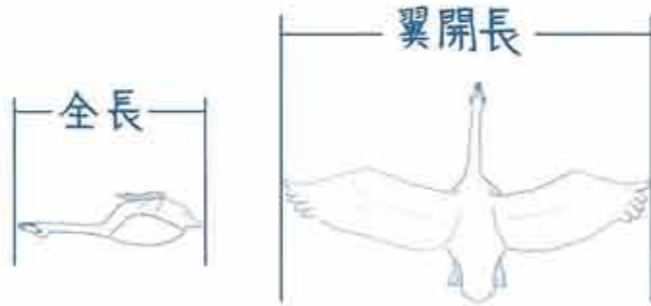
コハクチョウ
日本で越冬する冬鳥。オオハクチョウよりひとまわり小さい。

コブハクチョウ
ヨーロッパ原産。日本に移入された個体は一部繁殖し、外来種となっている。

コクチョウ
オーストラリア原産。南半球に生息するハクチョウ。

体

全長約140cm。
翼開長約225cm。
体重8~12kg。

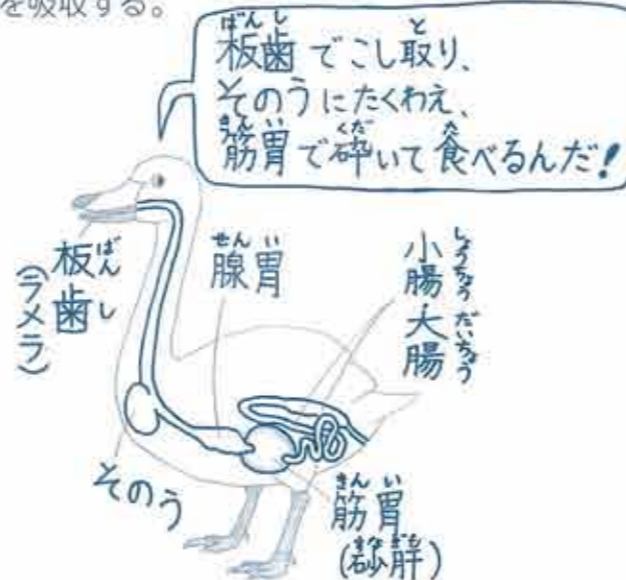


食べ物

主食はマコモ、ヒシなどの水草や、水中の微生物。田んぼの落ち穂なども食べる。

消化器官

板歯(ラメラ)でこし取った食べ物は、そのうに蓄える。その後、腺胃の消化液と筋胃(砂肝)の収縮で分解し、腸から栄養分を吸収する。



バードウォッチングに行こう!

北海道は渡りの中継地点であり、クッチャロ湖や宮島沼、ウトナイ湖などの有名な水鳥飛来地があります。これらの飛来地は「ラムサール条約」という国際条約で保護されています。国境を超えて生活している渡り鳥だからこそ、それぞれの国が協力しあって保護していこう、というわけです。

動物園で水鳥たちの魅力を感じていただけたら、次はぜひ野外での彼らの営みを観察してみましょう!

雪の季節を告げにきて、雪解けの季節に去ってゆくハクチョウたち

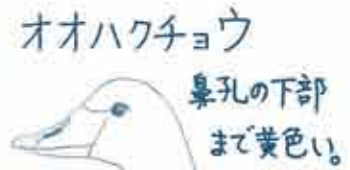
翼

飛べる鳥としては最大級の体重のため、翼の力はとても強い。卵やヒナを守る際には、武器としても使う。

くちばし

鼻孔の下面まで黄色く、黄色い部分は先端に向けてとがっている。板歯(ラメラ)と呼ばれるくし状のすじがあり、水中の食べ物をこし取ることができる。

見分け方
オオハクチョウ・コハクチョウの



ヒナはシベリアで生まれ育つ

渡り

春は繁殖のためにシベリアへ、冬は越冬のために日本へ。片道約3000kmもの距離を、毎年往復している。

脚

指の間に水かきがあり、泳ぐことに適している。飛翔するときには水面を蹴って助走しながら飛び立つ。



餌付けはやめましょう

~人と野生動物との適切な距離とは?~

かつては野鳥に親しむためや保護するために、餌付けが盛んに行われていました。しかし現在、動物にやさしく見える餌付けによって、人慣れた野生動物が農作物に被害をおよぼしたり、餌の食べ残しや動物の糞での環境汚染が問題となっています。

タンチョウは餌付けによって絶滅を回避した一例ですが、近年では増え続けるタンチョウに反比例して湿原の面積は減り続け、タンチョウの農作物への被害が問題視されています。タンチョウという一種の鳥だけを保護するのではなく、タンチョウが生きていける湿原全体を保全しようというのが現在の流れです。野生動物はペットではありません。彼らが自分たちで食べ物を見つけられる北海道の自然環境を、これからも守っていききたいものです。



餌付けされた水鳥たち。一見、なごやかな光景だが...

特集 追悼「ノシオ」

～ミナミシロサイ「ノシオ」の思い出～

今号の特集では2009年11月17日に亡くなったミナミシロサイ「ノシオ」の追悼として、歴代の飼育担当者、教育担当者(裏側ガイド)、動物園獣医師からの思い出を掲載することとしました。

経過

2009年7月22日 放飼場で起立困難となり左後ろ足に怪我を負う。傷口に消毒薬をスプレーする継続的な治療を開始。徐々に元気も食欲もよくなる。

10月 左後ろ足周辺、腹部及び顔面までの全身にかけて発疹ができ、元気も食欲も低下。血液検査の結果腎臓の機能障害も認められる。抗生物質や免疫力を高めるための投薬などの治療を開始。

11月15日 視力の極端な低下。ふらつくなどしたため放飼せずに寝室で過ごす。

17日 朝、寝室内で横たわりながら呼吸している。午前10時頃、ひっそりと息を引き取る。

1988年8月23日に大分の九州自然動物公園で生まれ、1997年4月24日に旭山動物園に来園しました。「ノシオ」と命名されてからは「ノシオ」や「ノッシー」と声をかけられ、たくさんの方々から親しまれました。「ノシオ」の死因は腎不全と推測されます。享年21才。



(辻栄 健二)

1996年、アジアゾウ「アサコ」が亡くなり、ひっそりとしていた獣舎にシロサイが来ることになり担当を命じられた。私にとってのサイの印象は、映画「ハタリ」で見たトラックにでも戦車にでもガンガン体当たりしていく姿だ。しかし、そのサイは初めての寝室に緊張気味か？おとなしい…。次の日からの放飼場への出入りもスムーズ。「サイってこんなに可愛いんだ！」と初めて知った。名前は公募によりノッシノッシと歩く「ノシオ」に決まった。二年間の担当中、リンゴ・サツマイモを食べようとしなない。「こんな美味しいものを何故？」と口元に持って行き、口先に触れた時に人のわきの下よりもっと柔らかい感触と、遠くで「ノシオっ！」と呼んだ時、ラッパのような耳をクルクル回している姿を思い出す。

となりに飼育されていたマルミミゾウのナナが亡くなってからヒマそうにしていたので、退屈しのぎに、ノシオの好きなブラッシングの時間を多くとってきた。すると昨年の冬くらいからブラッシング中にゴロリと横になり、背だけでなく他の部分もこすってくれという態度をとる様になり、ノドや腹・脚の付け根などをこすってやると、眼を閉じて、実に気持ちよさそう。疲れて途中で止めようとする、スックと素早く起き上がり、私の行く手をさえぎろうとする。ノシオがもういいと思うまでは続けなければならない。そんなノシオとのふれあいが、一年ほど前には有ったのだと、なつかしく思われる。今頃は天国で、ナナとモート越しのじゃれあいを充分楽しんでいるのかな？

(牧田 雄一郎)

子どもから大人までを魅了したノシオ。裏側探検ツアーで来園者の方々が入ると必ずあいさつに来てくれ、来園者の心をわしづかみにしていました。私はそんなノシオからたくさんを学びました。そして、教育活動、イベントなどでは、来園者の方々にノシオに触れてもらい、泥浴びのことや肌の感じ、そして温かさをたくさん感じてもらいました。ノシオには、本当に感謝しています。そして、本当に今までありがとう…。(佐賀 真一)



ノシオが来園した時、となりの獣舎にはマルミミゾウのナナがいた。ナナとノシオの間は深い堀で仕切られていたが、ナナが鼻を伸ばし、そしてノシオが顔を突き出せばナナの鼻がノシオの顔に届くのである。ノシオもナナを嫌がる様子もなく、ナナはノシオの顔に鼻を寄せ、まるでスキンシップをとりあっている様であった。

それはとてもほのぼのとした光景であり、私はいつも、それを見るのが楽しみであった。そんなナナとノシオであったが、2006年にナナが死に、又、ノシオも2009年11月17日に亡くなった。ナナもノシオも死んでしまった事は、非常に寂しく、残念であるが、又、色々な動物達のスキンシップを見つけないかと思っている。

(高橋 久雄)



獣医師の目で振り返ります。サイのような大型動物の診療は困難を極め、病気の予防と早期発見が第一。動物の異変に気づくのは、飼育係の重要なセンスです。サイは糞を一か所にまとめてするので、掃除が楽な動物ですが、ノシオが糞をいつもと違う場所にするのを見て体調の悪さを感じさせました。治療のとき当然、最初は突進して攻撃してきました。しかし、次第に同じ場所に入って注射をするのが簡単になり、逆に悲しい気持ちになりました。ノシオは穏やかな性格で、周近で観察できるので裏側ガイドの人気者でした。たくさんのごどもから大人まで感動をくれたことを知っています。ありがとうね。

(福井 大祐)

忘れもしない平成8年4月3日アジアゾウのアサコが死にました。いなくなってアサコの存在の大きさに気づきました。ぽっかりと大きな穴が開いたような総合動物舎。そこに九州自然動物公園からミナミシロサイ導入の話が持ち上がりました。サイは群れをつくりません。雄は成長すると親とは別に飼育することになります。飼育スペースの関係からノシオがいると次の繁殖を制限せざるをえない状況でした。ノシオが旭山に来ることで、親の繁殖を継続できます。種を繋ぐことに貢献できると判断しました。ノシオの存在感は圧倒的でした。あの巨体を養い続けるアフリカの大地の豊かさを想いました。総合動物舎にまたぽっかりと大きな穴が開いてしまいました。

(坂東 元)

あさひやま 解体新書

モユク編集委員・兼・飼育展示係の大西が、メディアで華やかに取り上げられるあさひやまとはひと味がう、現場の生の様子をお伝えしていきます！

株式会社アトスエーゼン製本
旭山解体新書
萬平師匠新譯

その② あさひやまに生きる動物王国の魂

旭山動物園の飼育展示係は、動物好きで飼育係になった人もいれば、まったく予想外の人事で動物園配属になった人、などさまざま。そんな中でも異色の経歴なのが、こども牧場・能戸真由美さん。彼女はなんと「ムツゴロウ動物王国」に約10年間務め、その後あさひやまの飼育展示係になったのである。あさひやまに勤務して現在2年目。そんな能戸さんから、あさひやまで働く近況についてコメントをいただいた。

みなさんこんにちは！こども牧場の能戸真由美です。ムツゴロウ動物王国から旭山動物園にきました。動物にたずさわる職場ふたつを経験し、それぞれの共通点・また異なる点もみえてきたところです。

具体的に言うと、動物王国にいた頃はとにかくイヌ好きの方が来園され、イヌの飼育方についての相談などもよく受けていたのに対し、動物園の来園者にはイヌを飼っている方が意外と少なく、「イヌが苦手」という方もたくさん来園されます。そういった方々に「どう接し、どう伝えたら良いだろう？」と最初はとまどいました。

動物王国ではたくさんのイヌや人と一緒にのんびりお散歩をしたり、イヌたちのすばらしい能力を感じてもらうために、実際にイヌが人と働く姿を見てもらったりしていました。

また、「生と死」命のありのままを感じてもらえるよう、イヌの出産や老犬介護のようすを来園者に見ていただいたり、時には「死」に直面していただく時もありました。

そうした「命」にたずさわる仕事の中で、現代の子供達は直接命と関わる機会が少なかったり、中にはゲームの中でしか動物と関わった事がなかったりと、本当の命の大切さ、尊さ、素晴らしさを感じる事のできない子供達が増えている現状に気づき、とても驚きました。

またペットブームと言われている世の中で、犬種本来の特性を知らずに、ただ「かわいい」「かっこいい」というだけでイヌを飼った結果「手に負えない」「こんなはずじゃなかった」と捨てられてしまう日本の現状にもさみしさを感じます。「ダメ犬なんていない！！」と私はいつも思っています。

旭山動物園では、王国以上にたくさんの人と出会う事ができます。イヌが苦手だったり、イヌにあまり関心がない人もたくさん来ます。だからこそ私は、この旭山で、今まで経験してきたことを生かし、「本来ヒトとイヌはどのように付き合ってきたのか？」また「働くイヌたちの存在価値」「素晴らしい能力」を、イヌたちと共に伝えていきたいと思えます。そして、そんなイヌたちと生活することの楽しさ、さらにはヒトとイヌとの間に生まれる「目には見えない素晴らしい関係」を心で感じてもらいたいと思えます。

旭山動物園には、5頭のイヌたちがいます。彼らとふれあうことをきっかけとして、イヌとヒトとの昔からの深い関係を、肌で感じてもらえればと考えています。

最後に、私にとってこの犬たちは、人生のパートナーであり、頼もしい犬たちです。そんな犬たちを、私は愛しています。

私も子ども、これからもイヌたちをよろしくお願いします！

(こども牧場担当：能戸 真由美)



ハウンドとレトリバー、たまごを見たときの反応のちがいは？



牧羊犬チェイスの特技はフリスビー！



救助犬でもあるニューファンドランド、ぞり引きは得意だ



能戸流・食事中のアドバイス

TV番組「ムツゴロウと愉快な仲間たち」。じつはぼく大西も子供の頃から大ファンだった。「動物が今どんな気持ちなのか」「どう接してあげたらいいのか」プロの視点から、視聴者にわかりやすく解説されていたのを今でも憶えている。

そして現在のあさひやま。ふだんは結構な天然キャラの能戸さんが、ひとたびイヌの話になると「プロの目」になる。動物王国の魂は、確実に能戸さんにも受け継がれている。

そんな「能戸さんと愉快な仲間たち」は、今のあさひやまになくてはならない存在なのだ。

動物病院VETニュース—動物も少子高齢化？—



よくお客さんに「〇〇の平均寿命は何歳ですか？」と質問されますが、100%正しい答えは難しいです。もし皆さんが「人間の平均寿命は何歳ですか？」と聞かれたら何と答えますか？「現在の日本では80歳くらい」と答えるかもしれませんが、答えは国や時代などによって違うのではないのでしょうか。

同じように動物も野生と飼育下では違いますし、時代によっても違います。例えば、レッサーパンダは国内での飼育開始当初（1970年前後）では最高齢は10歳以下でしたが、飼育技術の向上により現在では15歳以上の個体も多く、最高で22歳という個体もいます。旭山動物園の陽陽（ヤンヤン・オス17歳）と朝朝（チャオチャオ・メス18歳）もかなりの高齢で、陽陽は視力も低下してきたので、同居個体と隔離して餌を食べさせる等のケアが必要になってきました。

また、高齢動物では腫瘍や臓器の機能低下等が増える可能性があります。去年亡くなった、アムールトラのいっちゃんは肝臓の腫瘍、ユキヒョウのプリンは腎不全が死因でした。今後はこれらの病気に対する治療や、早期発見のための健康診断などがさらに重要になってくると思います。

日本だけでなく、動物園動物（種類によっては）も高齢化社会ですね。

また、高齢化以外の問題として、少子化があります。少子化⇨個体数維持の指標として、人口ピラミッドというものがあります。個体数（人口）を安定して維持していくためには正三角形が理想とされていますが、現在の日本の人口は壺型となっています。これと同じような動物種を探してみると、国内のホッキョクグマが同じように壺型になっていました。このままでは国内のホッキョクグマの個体数維持が難しいことを意味しています。対応としては国外との動物交換や繁殖率の向上などが重要です。子供手当をもらっても、ホッキョクグマは子供を産んでくれませんから大変です。

動物園では赤ちゃんや命の誕生（繁殖）に注目が集まりますが、高齢動物や動物の死からも何かを感じてみてください。



陽陽用にエサを食べやすくしてみました

こども牧場だより—16年目のルーキー—



昨年の11月からこども牧場の担当になりました中田です。動物園で働き始めて、はや16年。ダチョウ、カピバラ、クジャクから始まり、チンパンジーから群れのルールの大切さを学び、ソウには圧倒的な存在感を見せつけられ、アザラシ、ライオンから子育術を伝授され、トラからは気高き生きざま、命の尊さを教わってきました。どれもみんな野生動物です。彼らとの付き合い方は「過度に干渉せず距離をもって見守る」そして来園者には「野生動物のすばらしい能力と魅力を伝え、感じてもらう」を基本にやってきました。

新天地「こども牧場」ではウサギ、モルモット、イヌ、ニワトリ、ヤギ、ヒツジなどいわゆる家畜・ペットと呼ばれる動物たちの施設です。こちらは実際に動物と触れ合い、手触りや体温など命を直に感じてもらうことができます。どちらも動物を飼育することには変わりはありませんが、付き合い方が大きく違い初めは戸惑いもありました。「さて、ここで何をしよう？」そう考えていたある日、ひざの上にウサギを抱き、満面の笑顔を返してくれる子供たちのうれしそうなお顔を見て「牧場の役割ってこれだよなあ…」そう感じました。

12月末、こども牧場で自身の初ワンポイントガイド、テーマは「ニワトリ」です。改めてニワトリを勉強してみると、その歴史、品種など知らなかったことだらけ！そしてガイドの最大のテーマは「私たち人間は家畜動物の命を頂いて生きている」「彼らの命が私たちの体を豊かにしてくれる」「食べられるために生まれる命がある」とも重いテーマでしたが、はたしてどこまで伝わったのでしょうか？

「伝えるのは命の輝き」

16年目のルーキーから皆さんに伝えることは、まだまだたくさんありそうです。ぜひこども牧場に来て直に命を感じて下さい。命の温もりに笑顔を添えて、スタッフ一同お待ちしております。

(こども牧場担当：中田 真一)



主なできごと

- 〈2009年〉 12月18日 「ペンギンの散歩」スタート
12月26日 ペんぎん館トボガン広場（仮設）設置
- 〈2010年〉 1月 9日 「感じて！身近な自然を学ぶ会」[冬芽・動物の足跡を探す編]
1月15日 エゾヒグマ「とんこ」産室へ閉じ込め
1月16日 三度のメシより旭山「ワシ・タカの飼育体験」（大内）
1月19日 あざらし館プール凍らせ大作戦「流氷広場」完成
1月26日 「キョン」2頭来園（非公開）
1月28日 道内ホッキョクグマ飼育4園共同声明発表
1月31日 飼育勉強会「ヤギの繁殖・成長についての記録」（北川）
「動物園衛生学」（中村）
- 2月 7日 旭山動物園ペンギン雪像コンテスト開催
2月 9日 ホッキョクグマ「サツキ」円山動物園より来園
2月10日 生物多様性保全に関するマレーシア国サバ州野生動物局と
旭川市旭山動物園との合意調印式
2月11日 フォーラム「ホルネオへの恩返し 緑の回廊をつくろう」開催
2月12日～14日 旭川生涯学習フェア「まなびピアあさひかわ」出展
2月12日 ホッキョクグマ「サツキ」初放飼
2月14日 雪の中の動物園撮影会
2月17日 「サツキ」「コユキ」と初同居
2月19日 ペんぎん館トボガン広場2010完成
2月20日 三度のメシより旭山「ホッキョクグマの飼育体験」（佐橋）



編集後記

昨年11月にミナミシロサイのノシオが死にました。仲良しだったマルミソウのナナに続き、動物園の象徴のような大型草食獣の死はショックも大きいです。総合動物舎もいっそう寂しくなっていました。

しかし一方で、今年もオオワシやゴマフアザラシを先陣に、春の繁殖シーズンが到来します！亡くなる命もあれば、新たに誕生する命もある・・・

亡くなった命から教訓を受け、今ある命を大切に。さらに次の世代へ繋ぐ努力をすることが、私たち飼育係にできる唯一最大の弔いといえるのではないのでしょうか。

今年の春も繁殖ラッシュに期待しましょう！

モユク・カムイ No.76 平成22年3月15日

発行所 旭川市旭山動物園 〒070-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
発行 坂東元 <http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyanazoo/>
編集委員 中田真一・島山淳・大西敬文・佐賀真一
印刷 株式会社アドス・エージェンシー
〒070-0042 旭川市中常盤町1丁目 ☎0166-22-2794

飼育動物数 (平成22年2月末現在)

哺乳類	45種	263点
鳥類	72種	452点
爬虫類	12種	31点
合計	129種	746点